

令和 6 年度 学校経営計画書

学校番号	1 7	学校名	静岡県立裾野高等学校	校長名	田代 直彦
------	-----	-----	------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

時代の要請の中で変化を続けてきた沼駿地区唯一の総合学科高校として、裾野市との連携協定締結のもとキャリア教育を重視し、系列の特色を踏まえて、地域や産業界等と連携し課題解決能力を高める取組を実行する。このことを通して自らの使命を自覚し高め、何事にも挑戦し社会の変化に柔軟に対応できる行動力を育成する。さらに持続可能社会構築を掲げる地域に貢献できる人材育成を目指す。

2 スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>＜全系列共通＞ 何事にも挑戦し、社会の変化に柔軟に対応できる行動力を身に付けた地域に貢献できる人を育成します。</p> <p>1 人文国際系列 文系科目を中心に学び、コミュニケーション能力や諸外国の文化を理解する力を育みます。</p> <p>2 自然科学系列 理系科目を中心に学び、自然科学の原理原則を理解し、応用する力を育みます。</p> <p>3 ビジネス系列 ビジネスにかかわる基本的な知識・技術とマナーを身に付け、社会人として必要な正しい勤労観と社会性を育みます。</p> <p>4 福祉介護系列 福祉にかかわる基本的な知識・技術とマナーを身に付け、「介護職員初任者研修」を取得し、地域福祉の推進と発展を担う職業人を育みます。</p> <p>5 保育系列 保育にかかわる基本的な知識・技術とマナーを身に付け、情操豊かで他者への思いやりの心を持つ豊かな人間性を育みます。</p>	<p>1 総合学科の学び 1年次は、全員が共通の普通科目中心のカリキュラムで学びます。1年次の数学・英語の授業は少人数制授業を実施します。 2・3年次は、卒業後の進路実現に応じて、人文国際・自然科学・ビジネス・福祉介護・保育の5つの系列の教育課程を編成します。多種多様な教科・科目を設定した「総合選択科目」により、生徒一人ひとりの個性に応じた分野の学習が選べます。</p> <p>2 キャリア教育の重視 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」等での探究学習や体験活動をとおして、将来の生き方や夢の実現に向けて進むべき進路を考えます。</p> <p>3 地域との連携 各系列の学習やキャリア教育では、外部人材を積極的に活用し、学習内容の充実を図ります。保育系列では、地域の親子が参加する「親子教室」を開催して、保育実習を週1回程度行います。</p>	<p>1 基本的な生活習慣 しっかりと挨拶ができる等、基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守ることができる生徒</p> <p>2 挑戦 自ら課題を見だし、その解決に向けて粘り強く取り組もうとするチャレンジ精神旺盛な生徒</p> <p>3 変化 将来のために自分の生き方や在り方を深く考え、自分自身をよりよく変えていこうとする生徒</p> <p>4 地域貢献 地域の一員としての自覚を持ち、主体的に行動し、地域に貢献しようとする生徒</p>

3 スクール・ポリシーの具現化の柱

- ア **基本的な生活習慣** まず “日常生活の中でしっかりと挨拶ができる” から始め、基本的な生活習慣の確立を目指す。また集団の中で自らの役割を見出し行動できる生徒を育成する。さらに社会に適応できるようにするために、卒業時まで社会人として必要な力（社会人基礎力）を育成する。
- イ **自立心** 自己教育力や規範意識を醸成し、生徒の自立性・社会性を伸ばし、命を尊び健康で安全な生活を営むことができる力を育成する。
- ウ **挑戦心** 各系列の特色を生かして地域人材の積極的活用を図り、生徒の学習意欲の向上に努めるとともに、基礎・基本となる知識・技能の定着を図る。さらに自ら課題を見だし、その課題解決に向けて、粘り強く取り組むチャレンジ精神に富んだ生徒を育成する。
- エ **変化に対応する力** 生徒が自己の生き方を考え自らに合った進路実現ができるようキャリア教育を推進する。そして地域や産業社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成する
- オ **自己肯定力** 学校行事・特別活動・部活動等への主体的な参加により、生徒一人ひとりが尊重され、認め合い、活躍でき、自信と誇りを持って生きていくことができる学校を目指す。
- カ **地域貢献力** 学校の情報を積極的に保護者や地域に発信するとともに、地域の諸課題について主体的に探究活動を行い、保護者や地域とのつながりを深めることで、地域貢献ができる人材を育成する。
- キ **グローバル力** 郷土に誇りを持ちながら、地球的な規模の課題についても探究し、国内や国際社会に目を向け社会貢献できるグローバル人材を育成する。

様式第1号

ク	同僚性の向上 教職員は、常に研究と修養に努め、積極的に研修に参加し、最新の知識や技術の習得に励む。また、互いにコミュニケーションを深めるなど同僚性を高めて学校全体の指導力向上に貢献する。
ケ	ワークライフバランス 教職員は、仕事を組織的・計画的に行って効率化を図り、ワークライフバランスに努める。また、次世代育成支援を意識した行動に取り組む。
コ	教育環境の充実 保護者や地域住民等と連携して安心安全に学ぶことができる教育環境の整備・充実に努める。

4 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	社会に適応できる基本的な生活習慣の確立に向けた指導を充実する。	<p>頭髪・服装等に関する指導、挨拶指導、朝読書指導を徹底し、欠席・遅刻・早退を減少させ、基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>初期指導、少人数クラス経営、登校指導、昼休み巡視、保護者や地域との連携を通し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努める。</p> <p>問題を抱えた生徒等には生徒課、学年、保健・相談課が連携してサポート体制をつくり、組織的な対応を行う。</p> <p>生徒が主体となるような委員会活動を実施する。</p>	裾野高校に入学してよかったと答える生徒 100%	全員
			服装が良いと答える生徒 90%以上	生徒課 学年部
			挨拶ができると答える生徒 90%以上	生徒課 学年部
			出席率 98.0%以上 遅刻・早退件数 前年度比 30%減	教務・研修課 学年部
			基本的な生活習慣の指導が適切に行われていると答える生徒 85%以上	生徒課 学年部 保健・相談課
			委員会活動が活発であると答える生徒 65%以上	保健・相談課 総務・図書課 生徒課
イ	望ましい社会性、規範意識を育成し、生徒の自立性・社会性を伸ばし、命を尊び健康で安全な生活を送らせる。	<p>道徳教育の充実を図り、問題行動を減少させる。</p> <p>学年会、生活アンケート、いじめ対策委員会、教育相談委員会を実施して、いじめ等の学校の危機や問題行動を未然に防止する。</p> <p>カウンセリングを通して、生徒の心身の健康に積極的に取り組む。</p> <p>実際の災害を想定した実効性のある防災教育を実施する。地域防災訓練の実施日を生徒に周知す</p>	全校集会、学年集会で生徒に問題行動予防のための講話を毎回実施 問題行動の発生件数前年度比 20%減	生徒課 学年部
			PTA・地域との連携による交通安全指導を実施し、交通事故件数を前年度比 20%減 外部講師による交通安全教室を年 2 回実施	生徒課 保健・相談課
			いじめ防止・スマホの適正使用に関する研修会（生徒・教員） 2 回以上実施 教育相談委員会の実施を年間 6 回以上 健康・安全に関する指導が適切に行われていると答える生徒 90%以上	

		<p>る。 保健便りを定期的に発行する。</p> <p>面接週間や休業中の三者面談以外にも家庭や生徒との面談またはアンケートを積極的に行う。</p> <p>定期的には大掃除を実施するなど清掃活動の充実を図る。</p>	<p>避難訓練を年 3 回実施。避難訓練は大切と答える生徒 95%以上 地域防災訓練参加率前年度比 10%増</p> <p>保健便りを年 10 回は発行 疾病治療 60%以上 特に、歯科受診率 30%以上 朝食摂取率 95%以上</p> <p>教職員は生徒の話を親身になって聞いてくれると答える生徒 90%以上 生徒面談年 3 回以上 生活アンケートを年 3 回実施し、問題がある場合は関係教職員が即座に対応 定例いじめ対策委員会を年 3 回開催</p> <p>清掃により校内美化が保たれていると答える生徒 80%以上</p>	<p>総務・図書課</p> <p>保健・相談課</p> <p>保健・相談課 学年部 生徒課</p> <p>保健・相談課</p>
ウ	<p>総合学科の特色を生かして、地域人材の活用を図り、基礎基本の定着や課題解決能力の向上を図る。</p>	<p>新教育課程の実施に向けて、研修を積極的に行う。</p> <p>主体的に学びに向かう生徒の増加を意識した授業力向上研修等を実施する。</p> <p>少人数授業、習熟度別授業、TTによりきめ細やかな指導を実施する。</p> <p>各教科は授業の充実と基礎学力の向上のため初期指導を実施する。週末課題や課題テスト等を充実させることで、家庭学習習慣の定着を図る。</p> <p>読書活動を推進し、図書館利用率を向上させるとともに生徒の言語活動・表現力の充実を図る。</p> <p>教科選択のあり方を検討する。</p>	<p>新教育課程・学習評価及び ICT 活用に関する研修を年 3 回以上実施</p> <p>家庭学習をよくやっていると答える生徒 35%以上 基礎力診断テストにより基礎学力の定着度が把握できたと答える生徒 80%以上 授業で力がついたという生徒 80%以上</p> <p>授業がわかると答える生徒 85%以上</p> <p>家庭学習時間調査を定期的実施し、平日が 40 分以上、休日が 60 分以上と答える生徒が 80%以上</p> <p>朝読書はよい効果があると答える生徒 70%以上 生徒の借りる本平均 4 冊以上</p> <p>系列や選択科目が希望進路に 応じていると答える生徒 90%以上 オープンスクールにおける</p>	<p>教育課程検討委員会 教務・研修課 教科</p> <p>教務・研修課 進路課 教科</p> <p>教務・研修課 教科</p> <p>教務・研修課 教科</p> <p>総務・図書課 学年部</p> <p>教務・研修課 進路課 総合学科</p>

		系列の特色化を図るために地域人材の活用を積極的に図る。また、地域の課題解決を図る取組を推進する。	来校者の満足度 97%以上 地域人材の活用 150 件以上 地域関連事業の実施年 30 件以上	キャリア教育
エ	キャリア教育を推進し、地域や産業社会の変化に対応しながら自己実現のできる人材育成を図る。	進路課を中心に、平日や長期休業中の進学補習を計画的に実施するとともに進路希望に応じた個別指導の充実を図る。 総学キャリア広報推進室を中心に、計画的、組織的に「産業社会と人間」「総合的な探究の時間（キャリアアップセミナー）」を運営して自己の在り方・生き方を考えさせる。 『進路の手引』を十分に活用し、高校入学前の事前評価も踏まえ、高校3年間を見通し、計画的な進路指導・支援を行う。	3年生の就職者の第一志望合格率 90%以上 3年生の進学者の第一志望合格率 90%以上 3月末までの進路決定 100% 進路決定に向けた指導が充実していると答える生徒 90%以上	進路課 3年部
			「産業社会と人間」・総合的な探究の時間が自己のためになったと答える生徒 80%以上	総合学科 キャリア教育
			インターンシップ参加者 2年生（就職希望者）100% オープンキャンパス参加者（進学者）100% 志望学部・志望学科・志望職種が明確になったと答える2年生 90%以上 自己の進路目標に即して系列を選ぶことができたと答える1年生が 90%以上	進路課 2年部 1年部 キャリア教育
			平日、休業中の補習参加者各学年 60 人以上	進路課 学年部
オ	学校行事、特別活動、部活動を充実し、生徒に自信と誇りを持たせ、学校の活性化を図る。	生徒自らが行事を運営する。 HR活動を充実させ各自の所属感を向上させる。担任が学級経営に対し明確なビジョンを持ち、特色ある学級経営を実施する。 指導方法を工夫し、部活動を活性化させる。 部活動の日を設定し、全校生徒が部活動に取り組む体制を整える。 外部人材を活用して部活動の専門性を確保する。	生徒会活動は行事の成功につながっていると答える生徒 90%以上 学校行事は充実していると答える生徒 90%以上	生徒課
			HR活動を通してクラスのまとまりがあると答える生徒 90%以上	生徒課 学年部 担任
			所属している部活動に満足していると答える生徒 85%以上	生徒課 各部活動
カ	保護者や地域住民等への広報活動を充実し、地域貢献活動を活発に行う。	管理職、分掌、各学年部、教科は、中学校生徒保護者、地域や本校保護者に情報提供を積極的に行	HPを活用して毎週 1 回以上の情報を発信し、月のアクセス数を 2,500 以上とする。 HPやC ラーニング等で学校	管理職 情報委員会 総務課 学年部

		う。	の様子を知ることができると答える保護者 90%以上	生徒課 総合学科 教科
		学校広報を裾野地区や中学校へ配布する。	地域向け学校広報を月に 1 回発行する。	総合学科
		PTA 活動への保護者の参加を促す。	PTA 総会・学年保護者会の出席率 30%以上 PTA 活動の趣旨を十分理解して参加していると答える保護者 70%以上	総務・図書課
		地域貢献活動を積極的に行う。	清掃活動以外の一部活動一ボランティア活動の実施 100%	生徒課 各部活動
キ	職員及び生徒の国際化を推進し、グローバル人材を育成する。	授業等において地球的規模の課題について探究する機会を設ける。	地球的規模の課題について興味を持ったと答える生徒 60%以上	1、2 年部 総合学科 教科
		補助金等を活用して各種検定等の資格取得を奨励する。	英語検定合格者数 3 級 15 人以上 準 2 級 10 人以上 漢字検定合格者数 2 級 5 人以上、準 2 級 10 人以上 数学検定合格者数 準 2 級 5 人以上 商業検定合格者数 全商検定（簿記・情報・電卓）1 級 20 人以上	
ク	教職員は研修に積極的に参加し、組織的な取組により学校力の向上に貢献する。	教員相互の授業参観や生徒による授業評価を実施して授業改善に取り組む。	授業参観後の合評会や生徒による授業評価アンケートを非常勤講師まで含んで 100%実施	教務・研修課
		授業力向上研修を定期的 に実施する。	「主体的・対話的で深い学び」及び「ユニバーサルデザイン」を意識して授業を行う教員の割合が 100%	教務・研修課 教科
		県内外の特色ある取組を視察し、研修参加を促進する。	必要な生徒に対して個別支援計画を作成 UD 教育を取り入れる教員 100%	保健・相談課
		教務・研修課、保健・相談課、スクールカウンセラーと連携し教育研修を実施する。	教務・研修課、生徒課の連携により、採用 1～3 年目の教員のための生徒指導に関する研修を導入する。	教務・研修課 生徒課
		採用 1～3 年目の教員を対象とした生徒指導研修を実施する。	教職員が連携し、カリキュラム・マネジメントを意識した	
		学校基本問題検討委員会		

様式第 1 号

		を中心にカリキュラム・マネジメントを意識した学校づくり・学校力の向上に取り組む。	教育活動を実践し、教育効果が上がったと実感する教員 80%	
ケ	教職員は業務の効率化を図り、ワークライフバランスに努める。また、次世代育成支援を意識した行動に取り組む。	<p>定例会議の実施及び計画的、組織的な取組を実施する。</p> <p>定時退勤日を設定し管理職から教職員に早めの退勤を促し、時間外勤務を削減する。</p> <p>年休・夏季休暇等の取得の向上を目指すため業務削減に取り組む。</p> <p>勤務実態を振り返る機会を定期的に設定する。</p> <p>時間外勤務を削減する。</p>	<p>月曜日の定時退勤励行（午後 6 時完全退勤）</p> <p>午後 8 時完全退勤 90%以上</p> <p>夏季休暇完全取得</p> <p>一人当たり時間外勤務月平均 30 時間以下</p> <p>一人当たりの年休取得日数平均 13 日以上</p>	全員
コ	安心安全な教育環境の整備、充実に努める。	<p>コンプライアンス意識を徹底して、体罰、セクハラ等の学校不祥事を防止する。</p> <p>学校経営予算の効果的な執行に努めるとともに、適正な会計処理を行う。</p> <p>学期に一度安全点検を実施し、事務部と連携して整備・充実に努める。</p> <p>警報時の対応について周知徹底を図る。</p>	<p>体罰、セクハラ等服務事故 0 件</p> <p>施設設備に起因する事故 件数 0 件</p> <p>監査、検査での指摘、文書指導等の件数 0 件</p> <p>学校の施設・設備が整備されていると答えた生徒 85%以上</p> <p>警報時の対応について承知していると答えている生徒や保護者 85%以上</p>	管理職 事務部 保健・相談課

※以上のアからコの成果目標を達成することを通して、入学者選抜において募集倍率 1.00 倍以上を達成する。
(管理職・全教職員)